

茨城県立こども病院（茨城県） 2013年10月



県立こども病院

長期の入院で病室に閉じこもりがちな中高生にゆったりと過ごせる場所を提供しようと、水戸市双葉台3丁目の県立こども病院（土田昌宏院長）は3日、院内にプレイルーム「わくわくるーむ」を開設した。自宅の部屋のような造りにして漫画やDVD、調理器具などをそろえた。

同病院には幼児向けのプレイルームが2カ所あるが、中高生向けの設置は初めて。職員らの会議室を改装

中高生向けに遊び部屋



県立こども病院に開設された中高生向けプレイルーム「わくわくるーむ」＝水戸市双葉台3丁目

内装も壁紙を張り替えてフラインドからカーテンにし、照明は蛍光灯から柔らかな黄色の光のものに変え、自宅の部屋のような雰囲気とした。

土田院長は「ティーンエージャーは個室に閉じこもりがち。もっと外に出て、広いスペースでゆったり過ごす部屋にしてほしい」と話している。

この部屋の開設には、「子どもの療養環境改善寄付金」を運営するNPO法人子ども健康フォーラム（愛知県）とマニユライフ生命が協力した。

（根本樹郎）

した28平方メートルの室内には、漫画や図鑑、映画のDVD、インターネット「スカイプ」搭載のパソコン、テーブルゲームなどをそろえた。「与冷蔵庫も備え付けた。

▽県立こども病院に遊び部屋オープン

水戸市双葉台3丁目の県立こども病院に3日、長期入院している中・高校生が遊ぶことができる部屋「わくわくるーむ」がオープンした。NPO法人「子ども健康フォーラム」がマニュアルライフ生命保険の支援を受け、全国で設置を進めているプロジェクトで、県内では初めて。

乳幼児や小学生用の遊び部屋はあるが、中学生以上の子どもたち用に部屋はなく、くつろげる場所が求められていた。28平方メートルの部屋にはパソコン、楽器、マンガと雑誌などがある本棚などを設置。調

理用具も備え、簡単な食事を作ることもできるという。土田昌宏院長は「長期の療養生活を送る思春期の子どもたちが楽しく過ごせる環境を提供してもらい、感謝したい」と話した。



楽しくゆったりした闘病生活を

中高生対象「わくわくるーむ」

病気の子どもたちの療養環境の整備を支援するNPO法人「子ども健康フォーラム」(愛知県みよし市、長島正実理事長)は3日、水戸市双葉台の県立こども病院に、中高生を対象にしたプレールーム「わくわくるーむ」(約28平方メートル)を設置した。同NPOは生命保険会社の寄付を受け、全国の子ども病院にプレールーム設置活動を展開。茨城が10カ所目になるといふ。

同ルームには漫画や雑誌、映画のDVDなどが置かれており、自

NPO法人 水戸・県立こども病院に設置

由に閲覧できる。また、電子レンジやホットプレートも設置され、料理や食事もできるようになっていくという。

同日開かれた開所式で、同NPOの渡辺芳夫副理事長は「長期入院を余儀なくされる子どもたちの癒やしの場になってほしい」などとあいさつ。土田昌宏院長は「小児がんや心疾患の思春期の子どもたちは、個室にこもりがちになってしまふ。楽しく、ゆったりした闘病生活をかなえてあげられる」と期待した。

【玉腰美那子】



開設した「わくわくるーむ」の特徴を説明する病院スタッフ(左) 水戸市双葉台の県立こども病院で